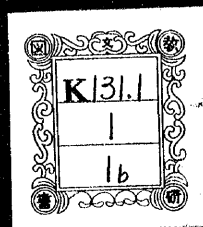


K131.1

1

1b



尋常小學修身書

文部省著作

第一學年
教師用

發賣所
合名株式會社
國定教科書共販賣所

K131.1
1
16

文部省著作

第一學年
教師用

尋常小學修身書



發賣所
合名社國定教科書共同販賣所

緒言

- 一。尋常小學修身書は本省に於て特に設けたる修身教科書調査委員をして編纂せしめたるものなり。
- 二。尋常小學修身書は別ちて教師用兒童用の二種とす。教師用書は四巻とし尋常小學校各學年に一卷づつを配當す。兒童用書は三巻とし尋常小學校第二、第三及び第四學年に一卷づつを配當す。また尋常小學校第一學年用のために掛圖を製し教授上の便に供す。
- 三。修身科にて授くる事項は兒童をしてこれを理解せしむるのみならず自ら進んでこれを實行せんとの念を起さしめんことを期し常にこれが實行を督勵すべし。
- 四。各課を教授する際、土地の情況及び生活の情態に應じ兒童の日常經驗せる事實を引用して、理解を容易ならしめ以て確實なる觀念を得しむべし。
- 五。人物の事蹟を授くる際には、なるべく現今の事情及び兒童の境遇と比較し

て説明すべし。

六。格言はよくこれを理解せしめ、なほ、これを暗誦せしむべし。

七。作法はこれに聯關せる課を授くる際、隨時演習せしむべし、但し繁雜に流るべからず。

八。教師用書各課題の下に、その課を教授するに要する時間の概數を記載せり。各學年に於けるこの時間の總數は規定の修身科教授時間に比すれば稍少し、これ偶發事項に基きて施すべき教訓と作法の演習とをなすの餘裕ありしめんがためなり。

明治三十六年六月

文 部 省

目 録

第一	學校	一頁
第二	教師	三
第三	姿勢	六
第四	整頓	八
第五	時刻を守れ	十一
第六	勉強	十四
第七	教室と運動場	十七
第八	あそび	十九
第九	おとうさんとおかあさん	二十二
第十	孝行	二十五
第十一	きょうだい	二十八
第十二	家庭の樂	三十一
第十三	友だち	三十三
第十四	天皇陛下	三十六

第十五	からだ	三十八
第十六	元氣よくあれ	四十
第十七	行儀	四十二
第十八	けんかをするな	四十四
第十九	うそをいふな	四十六
第二十	過をかくすな	五十
第二十一	人の妨をするな	五十一
第二十二	自分の物と人の物	五十四
第二十三	生き物	五十七
第二十四	近所の人	六十
第二十五	人に迷惑をかけるな	六十二
第二十六	よい子供	六十四

尋常小學校修身書

第一學年教師用

第一 學校

(四時間)

目的

學校は兒童を教育してよき人となす所なることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

說話要領

諸子は始めて學校に入れり。諸子の父母は何のために諸子を學校に入れたるか。諸子をよき人になさんがためなり。學校は諸子をよき人に育てあぐる所なり。諸子はいづれもよき人にならんことを望むなるべし。されば常に學校に通ふことを怠るべからず。

學校は決して窮屈なる所にあらず。先生は珍しき話をきかせ、また、おもしろき遊をも教ふ。學校には諸子の見たることもなき珍しき物も備はり、また廣やかなる運動場もあり、多くの友だちといっしょに學び、いっしょに遊ぶことを得。

されば、これより諸子は日日學校に通ふことを楽しく思ふなるべし。學校は實に樂しき所なり。諸子はこの樂しき學校に通ふことを怠るべからず。

注意

- 一。兒童の始めて學校に入るときは、學校はいかなる所ぞ、教師はいかなること
をいふものぞと思ひをるべければ、これに因みて學校はよき人を造る所なりとの旨を諭し、常にこの意を反復して、よく兒童に會得せしむべし。
- 二。教師は常に態度を端正にして、温厚の風を保ち、言語を平易にして、野鄙に流るることなく、以て兒童をして尊敬の念を失はしめざるよ一務むべし。

- 三。教師が兒童を率ゐるに、嚴正に過ぐるときは、兒童をして畏怖の念を懷かしむることあれば、寬嚴宜しきを得て、親愛の情を失はしめざるよ一注意すべし。
- 四。入學の初、教室の出入、腰かけ方、立ち方、學校用具の持ち方、帽子の掛け方、敬禮の仕方等、坐作進退の方法を簡易に教へ示して、これを演習せしむべし。
- 五。兒童一同を率ゐて昇降口廊下、下駄置場、運動場、便所等を一周し、その場所ごとにつきて心得の要點を簡明に諭すべし。くどくどしき規則を數多く教ふるは害ありて益なし。只日日なすべき定のみを順序よく知らすれば足れり。それには一通り目撃せしめ場所ごとにつきて教ふる方宜し。

備考

時時學校に於て保護者懇話會の如き集會を催して、兒童に示したる心得と同じ事柄をなるべく、保護者にも話し、よく了解せしめおくを可とす。

第二 教師

(三時間)

目的

教師の教に従ふべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

諸子は喜び勇んで日日學校にきたる。何のためにかく學校にきたるか。……然り、よき人にならんがためなり。この繪を見よ。ここは學校の教室なり。壇の上に立てるは誰ぞ。……然り、先生なり。下にゐならべるは。……然り、生徒なり。一人の生徒の手を挙げたるは何のためぞ。……然り、今、先生の話終りて、この生徒は何事をか問はんとする所なり。先生の許あらば、まづすぐに立ちて問ふなるべし。

先生は生徒をよき人になさんとて親切に教へ導く人なれば、その教には必ず従ふべし。先生が話をする間は、氣をつけて靜にきくべし。わからぬことは話のすみたる後問ふべし。先生にものいはんとするときは、先づこの生徒の如く、片手を舉げて

許を乞ひ、先生の許あらば恥ぢ臆することなく、明瞭に發言すべし。

注意

- 一。本課に因みて左の諸項を諱すべし。
 - イ。教室にて妄に己が席を離るまじきこと。
 - ロ。教授中に雑談すまじきこと。
- 二。本課を教授する際敬禮の仕方を教へ、これを實習せしむべし。

主要なる設問

- 一。先生は何のために、皆さんを教へるのですか。
- 二。先生の話中は、どうしてをらねばなりませんか。
- 三。わからんことのあるときは、どうしますか。
- 四。先生にものをいふときには、どうしますか。
- 五。ものをいふときには、どんなふーにはねばなりませんか。
- 六。途中で先生にあつたら、どうしますか。

第三 姿勢

(三時間)

目的

姿勢を端正にすべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

腰かけたるこの生徒を見よ。(掛圖甲)。胸をひろく張り、背をまっすぐのぼし、手を机の上に置き、足を行儀よくそろへ、口を閉ぢて、前の方を見るなり。いかにも正しき姿勢にあらずや。腰をかくるとき、背をかがめ、頭を垂れ、または、机によりかかりて、頬杖をつき、片肘を張るなど、いづれも正しき姿勢にあらず。

次にこれ等の生徒を見よ。(掛圖乙)。これ等の生徒は今學校より歸りくる所なり。まっすぐに前の方を見ながら、姿勢を正しくし

て、元氣よく歩みきたれり。諸子もまた彼等の如く、姿勢を正しくして歩むべし。

坐るときにも、頭を垂れ、身體をかがむるなど、すべて姿勢をくづすことなきよー心がくべし。

注意

一。常に兒童身體上の習癖に注意し、また、その身體検査の成績等を利用して、教授の材料に資する所あるべし。

二。姿勢を正しくすることは健康の上にも大切なることを諭すべし。

三。姿勢に關し本課に於て教授したる作法を實習せしむべし。

四。本課に因みて左の諸項を諭すべし。

イ。膝頭を衣服の外にあらはさぬこと。

ロ。足を横に投げ出さぬこと。

ハ。懐手をなし、または、かくしに手を入れをらぬこと。

ニ。襟の開けて胸のあらはれたるとき、または、ぼたんのはづれたるとき、その

ままになしおかぬこと。

ホ羽織、前掛、袴の紐、または帯などのとけたるをそのままになしおかぬこと。
 ヘ。髪のを亂し、または、これを口にくはへなどせぬこと。

五姿勢を端正ならしむるは極めて大切なれども、初より強ひてこれを持続せしめんとして、永く一定の姿勢を保たしめ、窮屈に感せしむるはかへて害あり。教師はこの意を體して、徐徐にこれに慣れしむるよゝ注意すべし。

主要なる設問

- 一。腰かけてをるときには、どんな姿勢がよいのですか。
- 二。あるいてをるときには、どんな姿勢がよいのですか。
- 三。坐つてをるときには、どんな姿勢がよいのですか。

第四 整頓

(三時間)

目的

整頓の大切なることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

これ(掛圖甲)は何の繪なりとおもふか。……然り、生徒が机の中を整頓して先生に示す所なり。右におきたるは何ぞ。……然り、石盤と石筆となり。まんなかにあるは何ぞ。……然り、讀本なり。左におきたるは何ぞ。……然り、帳面なり。この組の生徒はいづれも先生の教に従ひて、よく整頓したれども、太郎はとりわけ見ごとに整頓したるゆゑ、先生はこれを褒め、他の生徒も皆太郎に倣ひて、更によく整頓せり。

次に先生は「出し入れするときにも、氣を付くべし」と教へて、机腰掛の並び方までよく直し、我等の教室は奇麗になりたり」と喜びたり。諸子もまた机の中を整頓せんとは思はざるか。我等の教室を奇麗にせんとは思はざるか。

太郎は學校にありて整頓をよくなししのみならず、家にあり

ても、机のまはりをかたづけ、學校用具などを散らしおくことなかりき。この繪(掛圖乙)を見よ。これは太郎が家にて學校用具をとりそろへ、翌朝學校に行く用意をなし、今、母に挨拶して眠に就かんとする所なり。諸子は家にありても、太郎の如く、常によく机のまはりをかたづけおくべし、決して學校用具を散らしおきなどすべからず。

注意

- 一。本課に因みて左の諸項を諷すべし。
- イ。學校用具出し入れ等の順序方法を定めおくこと。
- ロ。登校の準備は前夜になしおくこと。
- ハ。帽子、風呂敷、かばん、履物、傘等を取り散らさぬこと。
- ニ。戸障子をあげ放しおかぬこと。
- ホ。玩具等自らとり出したるものは自らもとの所に納め、とり散らしたるものはすべてかたづけおくべきこと。

二。本課を教授する際、食事に關する作法を授くべし。

主要なる設問

- 一。太郎は机の中をどう整頓しましたか。
- 二。これを見て先生はどうなさいましたか。
- 三。太郎はうちで學校用具をどうしておきましたか。
- 四。食事のときには、どういふことに氣をつけねばなりませんか。

第五 時刻を守れ

(三時間)

目的

時刻を守ることの大切なるを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。一群の兒童は連れだちて歩み行くなり。彼等は

今いづくへ行くか。……然り、學校へ行くなり。遙か向ふに見ゆるはその學校なり。今二三の兒童は路ばたに蝶の舞へるを見て、これをとらへんとし、一人の兒童は學校を指しながら、何事をか告ぐる所なり。

これ等の兒童は毎朝さそひ合ひ、連れだちて學校へ行き、課業の時刻に後ることなかりしが、この朝路ばたに蝶の舞へるを見て、二三の兒童は喜びてこれをとらへんとせり。一人の兒童はこれを止めて、ここにて遊びをらば、課業の時刻に後るべしといひ、一同うち揃ひて學校にいたれり。もし、ここにて遊びぬたりしならば、彼等は必ず遅刻せしならん。遅刻は甚だよからぬことなり。

諸子の學校にきたる途中にても、蝶の舞ひをすることもあらん。と

んほの飛びをすることもあらん。いろいろ、おもしろきものを見ることもあらん。されど、課業の時刻に後れぬことは諸子の大切な務なれば、決してこれがために遅刻すべからず。學校にても、課業の合圖をきかば、すぐに定の場所に整列すべし。いかなるおもしろき遊をなせりとも、これをやめてすぐに集るべし。學校より歸るときにも、父母の許なくして、途中にて遊び、または友だちの家に立ち寄りなどして、時刻に後るべからず。

注意

- 一。兒童の起床、登校、飲食、就寝等につきて、略ぼその時刻を定めてこれを家庭に通告し、幼時より規律正しき生活に慣れしむるよゝ注意すべし。
- 二。やむを得ざる事故ありて遅刻したるときは心得を示しておくべし。
- 三。父母の命によりて他所に使に出でたるときにも、途中にて遊び、時刻に後ることなきよゝ諭すべし。

主要なる設問

- 一。學校へ行く途中ではどんなことに氣をつけねばなりませんか。
- 二。學校から歸る途中ではどんなことに氣をつけねばなりませんか。
- 三。課業の合圖をきいたときは、どうせねばなりませんか。
- 四。使にいくときには、どんなことに氣をつけねばなりませんか。

第六 勉強

(二時間)

目的

勉強の大切なることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

ここに、見るもあはれなる男あり。身にあかつきたるつづれを
まとひ、軒かたぶけるあばらやにすめり。この人は何故にかく
あはれなる身の上とはなりしぞ。

この男の幼かりしとき、父母は彼をよき人になさんとて、學校

に入れたり。されども、彼はよく先生の教をきかず、また少しも
課業を勉強せず、毎日なまけくらすのみなれば、父母はこれを
憂へて幾度となく戒めしかども、彼は少しも顧みることな
りき。かくて父母を失ひたる後は世話する人もなくなり、よき
職業につくことはもとよりかなはねば、このよーにあはれな
る身となりしなり。

その頃彼とともに學校にありて、よく先生の教をきき、常に課
業を勉強せしものは、今いづれもよき人となり、それぞれり、ば
なる職業につき、樂しき月日を送れりといふ。

かくよき人となりたるものも、このおちぶれたる男も、もとは
同じ學校に入り、同じ先生の教を受けしものなれども、勉強せ
しと勉強せざりしとによりて、成長の後にはかかるちがひを

生ぜり。すべて幼きときに先生の教に従ひて課業を勉強せざれば、成長して後、多くは、かかるあはれなる身となるなり。されば、諸子も常に課業を大切に思ひ、先生の教に従ひ、勉強してよき人にならんと心がくべし。

注意

- 一。學校出席の大切なることを知らしめ、病氣その他、やむを得ざる事故あるときの外は、缺席せしめざるよー注意すべし。
- 二。一度缺席すれば、その後もまた出席を厭ひ、遂に怠惰の習慣を生じ易きものなれば、特によく注意しておくべし。
- 三。やむを得ざる事故ありて登校の時刻に後るとも、それがために缺席すべからざることを諭すべし。

主要なる設問

- 一。この人の身の上をどう思ひますか。
- 二。この人はなぜこんなにおちぶれましたか。

三。小さいとき、この人といふしに學校で勉強した子供は今どんなになりましたか。

四。小さいときに勉強しておかんと大きくなってどんなものになりますか。

第七 教室と運動場

(二時間)

目的

教室にてはよく學び、運動場にてはよく遊ぶべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

諸子は何のために、學校にきたるか。……然り、よき人にならんがためなり。先生は諸子をいかなる人になさんとて教ふるか。……然り、諸子をよき人になさんがためなり。それには教室にてはよく學び、運動場にてはよく遊ぶこと大切なり。

この繪掛圖甲を見よ。これは何の繪なるか。……然り、兒童が教室にて課業を受くる所の繪なり。これ等の兒童がいかに氣をつけて掛圖を見、いかに心をとめて先生の話をきけるかを見よ。今は學ぶべきときなれば、一心に學びをるなり。かく、一心に學びて課業を終へたる後は、運動場にいでて遊ぶなり。

この繪掛圖乙を見よ。これは兒童の運動場にて遊ぶ所の繪なり。一同、先生に連れられて遊べり。いかに面白さうに唱歌をうたひ、いかに楽しさうにあゆみをるかを見よ。今は遊ぶべきときなれば、かくは、よく遊べるなり。

教室にてはよく學び、遊ぶべきときによく遊ぶべし。學ぶべきときによく學び、遊ぶべきときによく遊ぶは諸子の大切な務なり。

主要なる設問

- 一。教室は何をするところですか。
- 二。教室にては、どうしますか。
- 三。運動場は何をするところですか。
- 四。運動場にては、どうしますか。

第八 あそび

(三時間)

目的

遊の心得を知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

これは學校の運動場なり。見よ、今は休のときなれば多くの兒童は先生といっしょに遊べり。こちらにては、何をなせるか。……然り、綱引をなせり。あちらにては、何をなせるか。……然り、手毬をつけり。いづれも元氣よく遊びをるなり。諸子はいかなる遊

を好むか。……然り、驅けくらべもよし、手毬つきもおもしろし。先生はなほ、いろいろ遊の仕方を教ふべければ、皆元氣よく遊ぶべし。

諸子は一人にて遊ぶと、多くの友だちと遊ぶと、いづれを楽しと思ふか。……然り、多くの友だちといっしょに遊ぶが楽しきものなれば、常に仲よく遊ぶべし。友だちをいぢめ、または、人の妨をなすことなかれ。友だちと遊ぶとき、少しのことにも、怒り、または泣きなどするは、わがままなるものや弱きものなすことなり。決して人の妨をなすことなく、仲よく遊ぶべし。

諸子は學校にて楽しく遊ぶのみならず、家に歸りても、楽しく遊ぶべし。されど、あしき戯をなすことなかれ。危き遊をなすことなかれ。不潔なる場所、または、危険なる場所にて遊ぶことな

かれ。道路にて遊ぶときには、車馬通行人の妨とならぬよー心がくべし。

注意

- 一。休憩の時間に楽しく遊戯せずして佇立する児童あり。これらの児童には、特に遊戯を奨励すべし。
- 二。遊戯の奨励には、教訓を以てするよりも、教師先づ身を以て率ゐる方效あり。故に教師は率先して児童に見習はしむるよー注意すべし。
- 三。運動場にありては、教師はなるべく児童の中にまじりて、その遊戯を監督し、児童の嗜好に應じて種種にこれを變更し、また、その運動の過激に陥らざるよー注意すべし。

四。本課に因みて左の諸項を諭すべし。

イ。校舎牆壁などを汚さぬこと。

ロ。花卉樹木を折らぬこと。

ハ。石を投げぬこと。

二。禁せられたる場所に入らぬこと。

主要なる設問

- 一。一人で遊ぶのと大勢で遊ぶのと、どちらがおもしろいでせうか。
- 二。大勢で遊ぶときには、どんなことに氣をつけねばなりませんか。
- 三。どんな遊をしてはなりませんか。
- 四。どんな場所で遊んではなりませんか。
- 五。路ばたで遊んでをるときには、どんなことに、氣をつけねばなりませんか。

第九 おとうさんとおかあさん

(三時間)

目的

父母の恩愛の深きことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。床に臥しをるは病氣にかかれる兒童なり。その枕もとに坐りをるは父にて、食物をすすめをるは母なり。この

兒童は數日前より病氣にかかれり。父母はいたく心配して夜もよく眠らず、親切に介抱せり。

諸子よ。この兒童の父母がかく親切にその病氣を介抱するをききて、いかに思ふぞ。諸子にも、また、父もあらん、母もあらん。不仕合にて早く父母に別れたる人にて、父母に代りて諸子を育つる人あらん。諸子が病氣にかかりしときには、この兒童の如く、これ等の人の親切なる介抱を受けしなり。されば諸子はこれを思ひて、常にその大恩を忘るべからず。

諸子よ。諸子の父母は諸子が丈夫なるときにも、また親切に諸子を世話するなり。諸子の衣服は父母の賜物にあらずや。諸子の食物も父母の賜物にあらずや。諸子がかく學校にきたりて勉強し得るも、また、父母の御蔭にあらずや。かく諸子を愛し、諸

子を世話する人のあればこそ、諸子の身の上は仕合なれ。もしこれ等の人なからんには、いかに悲しかるべきか。諸子は巢より落ちたる雀の子を見たることあるか。巢を離れて地に落ち、羽もなければ飛ぶこともかなはず、なき悲みても餌を與ふる親鳥もなし。世話する人のなき兒童は恰もこの雀の子の如し、世にこれよりあはれなるものなかるべし。されば諸子は常に父母の親切なる世話を思ひ、決してその大恩を忘るべからず。

注意

- 一。祖父母は深くその孫を愛するものなれば、このことを説ききかせて、その恩愛を思ひ起さしむべし。
- 二。父母祖父母のなきものには、これに代りて世話しくるる人の恩をも忘れぬよ一論すべし。

主要なる設問

一。病氣にかかったとき、おとうさんや、おかあさんには、どんなお世話になりましたか。

二。丈夫なときには、どんなお世話になりますか。

三。巢から落ちた雀の子はなせかはいさうですか。

四。あなたがたの仕合なのは誰のお蔭ですか。

第十 孝行

(三時間)

目的

父母に孝行をつくすべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

これはある女の兒が父のいひつけを受けて使に行く所なり。この兒は今まで多くの友だちとおもしろく遊びをりしが、父に呼ばれて、すぐに父のもとに行き、使に行けといひつけられ

て、直に出かけたり。この兒のかく親のいひつけを守りしはまことに感すべきことならずや。

諸子も、また、この兒の如く、父母の命じたまふことは何なりともよく守るべし。父母のかくせよと命じたまふことはその通りになし、してはならぬといはるることはなすべからず。父母もし、物を持ちきたれと命じたまはば、すぐに持ちきたるべし。たとひ、おもしろしと思ふ遊なりとも、それはよからぬことなりと教へたまはば、すぐに止むべし。

父母は諸子がよきことをなすときには褒めたまひ、あしきことをなすときには叱りたまふ。これ、諸子をよき人になさんごためなり。されば、父母の叱りたまふときにも、すぐにわびて、よくその教に従ふべし。子たるものは父母の教をよく守り、父母

に心配をかけぬよー心がくべし。

注意

- 一。父母は兒童をよき人となさんがために學校に入れしことなれば、課業に勉強するは父母の教に従ふことなる旨を諭すべし。
- 二。祖父母に對しても、父母に對すると同じ心得を以てつかふるよー諭すべし。
- 三。父母のほかに養育の恩を受くる人あらば、父母に對すると同じ心得を以てこれにつかふるよー諭すべし。
- 四。左の諸項を諭すべし。
 - イ。父母に口ごたへせぬこと。
 - ロ。父母に物をねだらぬこと。

主要なる設問

- 一。おとうさんや、おかあさんに、ものをいひつけられたときは、どうしますか。
- 二。おとうさんや、おかあさんがしてはならんとおっしゃったことは、どうしますか。
- 三。おとうさんや、おかあさんはなぜお叱りなされるのでせうか。

四。おとうさんや、おかあさんにはどうするのがよいでせうか。

第十一 きょーだい

(二時間)

目的

きょーだい仲よくすべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

このうつくしき野原を見よ。ここに遊べる二人の児童は姉と弟となり。二人は今何をなせるか。……然り、野原にいでて草をつみとりなどして、仲よく遊べり。見よ、姉は今つみとりたる奇麗なる花を弟に與へ、弟は喜びてこれを受けとらんとす。

このきょーだいは學校にくるときにも學校より歸るときにも、いっしょに連れだち、姉は弟を世話し、弟は姉のいふことをきき、い

つも仲よく學校に通ふゆゑ、つねづね先生に褒められぬたり。

きょーだい家にあるときは、姉は先生よりききたるおもしろき話を弟にきかせ、己が玩具を貸し與へ、時には、また、繪をかきて與へなす。弟も、また、喜びて、姉のいふことをきき、姉より與へられしものは大切にしまひおき、わからぬことあれば、姉に問ふ。きょーだいかく仲よくして、けんかなどをせしことなきゆゑ、父母もつねにこれを喜べり。

諸子の中にも、兄あるもあらん、弟あるもあらん、また、姉あるもあらん、妹あるもあらん。諸子はよく弟や妹をかはいがりて、世話すべし、決していぢめなどすべからず。また、兄や姉のいふことをききて、その教に従ふべし、決して手むかひ、または妨など

なすことなかれ。かくきょーだい仲よくしてかつ學びかつ遊ぶ
はまことに樂しきものなり。

きょーだい仲よくして父母の心になふは孝行なり。きょーだい
仲あしくして父母に心配をかくるは不孝なり。されば兄や姉
はいつも、弟や妹をかはいがり、弟や妹は兄や姉のいふことを
ききて、始終仲よくするよー心がくべし。

主要なる設問

- 一。弟や妹のある人はどんなことに氣をつけねばなりませんか。
- 二。兄や姉のある人はどんなことに氣をつけねばなりませんか。
- 三。きょーだいいっしょに學校へくるときには、どんなことに氣をつけますか。
- 四。うちでいっしょにあそぶときは、どんなふうにしますか。
- 五。きょーだい仲よくすれば、おとうさんや、おかあさんはどうお思ひなさる
うか。

六。きょーだいがけんかをするとおとうさんや、おかあさんはどうお思ひなさる
でせうか。

備考

尋常小學修身書にて、きょーだいと假名にて記せるは兄弟姉妹を併せ指すなり。

第十二 家庭の樂

(二時間)

目的

家庭の樂を知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

見よ。ここに、家内の人人いっしょに集りて食事をなせり。この家の
子供は食事をなしながら、祖父母や父母の間に應じて、學校に
て習ひしこと、友だちと遊びしことなどを話し、父母や祖父母
もいろいろのことを話しあひて皆皆樂しさうにみゆ。

諸子も家内の人たちのお蔭によりて、樂しく成長しゆくなり。父母祖父母の恩の厚きことは前に教へたれば、よく覺えをるならん。また、きよ^よ_いだいの仲よくせねばならぬことをも覺えをるならん。諸子はこれ等の人と、いっし^よにすめばこそ、樂しく成長しゆくなれ。諸子もし父母きよ^よ_いだいもなく、その他、世話する人もなき、見知らぬ所に獨りとり殘されたらば、いかばかりか悲しかるべき。

諸子よ、家内の人たちの世話をうけて、樂しく成長しゆくは諸子の大きな仕合なり。されば、よく家内の人のいふことをきき、目上の人にはよくつかへ、幼きものをばあはれむべし。諸子の家には、下男下女、その他の召使あるもあるべし。諸子は決してこれ等の人に無理をいひて、こまらすよ^いなことをなすべからず。

主要なる設問

- 一、皆さんの仕合なのは誰のお蔭ですか。
- 二、皆さんはうちで、どんなお世話を受けてゐますか。
- 三、うちの人が一人もないときは、どうでせうか。
- 四、皆さんはうちの人にどうせねばなりませんか。

第十三 友だち

(三時間)

目的

友だちは仲よくして助けあふべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。一人の兒童つまづきころびたるを友だち二人が親切にこれをいたはる所なり。この三人の兒童は平生仲よ

き學校友だちにて、行くにも歸るにも、互に誘ひあへり。ある日、いつもの如く、三人つれだちて學校より歸る途にて、一人の兒童はつまづきころびしかば、二人の友だちは大に驚き、一人はこれを抱き起し、着物につきたる砂などを拂ひやり、一人はそばに飛びちりたる學校用具、帽子などを拾ひやり、二人とも心配してけがはなきか、痛みはせぬかとたづねたり。ころびたる兒童はいかばかり友だちの親切を嬉しく思ひしならん。もしこの友だちの身に何か事あらば、この兒童もまた親切に世話するなるべし。まことに仲よき友だちならずや。

すべて、友だちはかく互に親切をつくすべし。友だちはきよーだいのよーに互に仲よくし、また、互に助けあふべし。友だちに喜ばしきことあれば、己れも共に喜び、悲しきことあれば、己れも

共に悲むべし。友だちに過あればとて、あざけり、そしりなどするはよからぬことなり。己れのためのみを思ひて、友だちの迷惑となることを顧みぬは甚だあしき心がけなり。

注意

- 一。この課によりて協同一致の念を起さしむるよー注意すべし。
- 二。本課に因みて左の諸項を戒むべし。
 - イ。友だちの容貌、服装等につきてあざけり、または、そしること。
 - ロ。友だちの過失をあざけり、または、告げ口すること。
 - ハ。弱いものいぢめをなすこと。
 - ニ。かげぐちをいふこと。

主要なる設問

- 一。この二人の友だちをなんと思ひますか。
- 二。起してもらった兒はどう思ひましたらうか。
- 三。友だちとつきあふのには、どんな心がけがいらいますか。

第十四 天皇陛下

(三時間)

目的

天皇陛下の御事を知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

天皇陛下の常にゐます宮城は東京にあり。この繪は天皇陛下の宮城をいさせたまふ所なり。向ふに見ゆるは宮城にて、御車にめさせたまへるは天皇陛下なり。路ばたにならびたる人はいづれも最敬禮をなせり。

天皇陛下は御名を睦仁と申し奉り、孝明天皇の皇子におはしませり、御歳十六にて御位をつがせたまひ、今年(明治三十七年)五十三歳にならせたまへり。

天皇陛下はわが日本國を治めたまふ御方におはしまして、常

にわれ等臣民を深く愛したまふ。

諸子が天皇陛下の下に生ひたちて、あつき御惠を蒙るはいかばかり大なる仕合ぞや。

注意

- 一。本課を教授する際には、莊重なる態度音調を用ひて、十分に敬意を表すべし。
- 二。本課を教授する際、君が代につきて、その大意を示しておくべし。
- 三。天長節の儀式に聯關して、この課を教授し、また天皇陛下の御事につきては、兒童の理解し得る限り、話しきかするよゝ注意すべし。

主要なる設問

- 一。天皇陛下はどういふ御方でいらっしいますか。
- 二。宮城はどこにありますか。
- 三。天皇陛下はどなたの御子であらせられますか。
- 四。天皇陛下はおいくつで御位をおつきになりましたか。
- 五。天皇陛下はことしおいくつであらせられますか。

第十五 からだ

(三時間)

目的

からだを大切にすべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。一人の兒童腹を痛めて、母の介抱を受くる所の繪なり。この兒童はいかにしてかく腹を痛めたるか。……然り、わるき物を食ひたるか、または、食ひ過ぎたるためならん。いかにその顔の苦しさうに見ゆるよ。またいかにその母の心配さうに見ゆるよ。

諸子は腹を痛めしことなきか。腹の痛むはまことに苦しきものなり。病氣にかかれれば、楽しき遊もできず、學校に行くことも

かなはず、父母その他、家内の人人にはいろいろの心配をかく。されば諸子は病氣にかからぬよー心がくべし。

病氣にかからぬよーにするには、つねに身體を大切にし、熟せざる果物、腐りたる物などは決して食ふべからず。また何物にても食ひ過ぐるは宜しからず。顔、頭、手、足などは常に清潔にすべし。身體に垢つけるときは病氣を起すこと多し。かかる心得をよく守りて、つねに元氣よく運動するとき、病氣にかかること少く、身體も丈夫になるべし。また、はげしく運動して後直に水を飲むはわるし。

注意

一、本課を教授する際には、時期に應じ、また土地の情況に應じて、飲食物等につき、兒童の心得おくべき衛生上の注意を授くべし。

二。本課に因みて左の諸項を論すべし。

イ。兒童は夜早く寝ねて十分に眠るべきこと。

ロ。毎朝顔を洗ひ、また口を嗽ぐべきこと。

主要なる設問

一。この兒はどうして腹を痛めましたか。

二。腹が痛むときは、どんな心持がしますか。

三。なせからだをだいにせねばなりませんか。

四。病氣にかからんよゝにするには、どうしたらよいでせうか。

五。からだを丈夫にするには、どうしますか。

第十六 元氣よくあれ

(二時間)

目的

元氣よくあるべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

これは何の繪なるか。……然り、幼き兒童が秋の晴れたる日、野

にいでて遊びをる所の繪なり。いかに元氣よく遊べるよ。また
いかに睦しく遊べるよ。これ等の兒童は一人の年上なる兒童
につれられ、朝早くより野にいでて、或は草花をつみ、或は駆け
くらべをなし、遂には向ふの小山の上まで登りたり。天氣のよ
き日に、かく野にいでて遊ぶはまことに樂しきものなり。

諸子がかかる遊をなしたることあるか。學校にありてはよく
勉強し、休の日には公園や野原にいでて、元氣よく遊ぶべし。元
氣よく遊べば、心もさわやかに身體も丈夫になるなり。

兒童はつねに元氣よくあるべし。公園や野原にいでて遊ぶと
きのみならず、學校にありても、家にありても、元氣よくあるべ
し。ものをいふときは、はっきりといふべく、たちるふるまひは活
潑にすべし。少しの寒さを恐るるなどのことあるべからず。

注意

兒童をして元氣よくあらしむるは大切なることなれども、これを獎勵するのあまり、粗暴に流れしむるは宜しからず。されば無作法または無遠慮なる舉動をなすを以て、元氣よきことなりと誤解するが如きことなからしむるより注意すべし。

主要なる設問

- 一。この子供たちはここでなにをしてをりますか。
- 二。元氣よく遊んだあととは、どんな心持がしますか。
- 三。休の日には、どうするのがよいのですか。
- 四。ものをいふには、どんなふうにいふのがよいのですか。

第十七 行儀

(四時間)

目的

行儀を正しくすべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

見よ。今、この兒童の家に親族の人きたれり。兒童はかねて教へられたる如く、行儀よく手をつきて敬禮をなすに、客人はこれを見て、その行儀よきを褒めたり。

諸子もまたこの兒童の如く、來客あるときには敬禮をなすべし。朝起きたるとき、夜寝るとき、學校へ行くとき、學校より歸りたるときなどには、父母等に挨拶すべし。學校にきたらば、先生に敬禮をなし、また、友だちにも挨拶すべし。目上の人より呼ばれたるときは、丁寧へんじすべし。途中にて知りたる人にあひ、または、別るときにも挨拶すべし。その他、家にありても、學校にありても、途中にありても、諸子のつねに守らねばならぬ行儀は必ず忘るべからず。

注意

本課を教授する際、起床、就寝及び食事のときの挨拶、並に來客に對する敬禮の仕方を教へ、且これを實習せしむべし、但しその作法は土地の情況等によりて適切なるものに限るべし。

主要なる設問

- 一。朝起きたときには、どんな行儀がいらいますか。
- 二。學校へ行くときには、どんな行儀がいらいますか。
- 三。途中で目上の人にあつたら、どうしますか。
- 四。友だちにあつたら、どうしますか。
- 五。うちにお客がきたときは、どうしますか。

第十八 けんかをするな

(二時間)

目的

けんかの悪しきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

母は他家よりもらひし一つの人形を二人の娘に與へたり。ある日、姉はその人形を持ちて、友だちの家に行かんとし、妹は「その人形は汝一人のものにあらず」とて、奪ひとらんとし、互に人形をとりあひて、けんかをなせり。母はこれを見て、「汝等に人形を與へしは、仲よく遊ばせんがためなり。かく、けんかをなさば、誰にも與へざるべし」とて、とりあけたり。

二人の娘は始めてけんかせしことを後悔し、母に向ひて、「今より後は、かはるがはる遊びて、仲よく遊ぶべければ、もとの如く賜はるべし」とわびたり。母は二人に向ひて、「けんかをなすべからざることを戒め、更にもとの如く、その人形を與へしかば、この後、二人は仲よく一つの人形を遊びて、けんかすることなかりき。」

すべて、げんかは悪しきことなれば、人が無理をいひかけ、または、げんかをしかくすることありとも、これにかかりあひて、げんかをなさず、父母または教師に告げてその教を受くべし。

注意

本課に因みて左の諸項を論すべし。

- イ。己れが悪しかりしことは、直にわふべきこと。
- ロ。人がわびたるときは、直にゆるすべきこと。

主要なる設問

- 一。姉が人形を持って、遊に行かうとしたときに、妹はどうしましたか。
- 二。姉と妹とがげんかするのを見て、おかあさんはどうしましたか。
- 三。そこで、二人がなんと行ってわびましたか。
- 四。そのとき、おかあさんがなんと行ってきかせましたか。
- 五。人が無理なことをいったときには、どうするのがよいでせうか。

第十九

うそをいふな

(二時間)

目的

虚言をいふべからざることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

これは何の繪なるか。……然り、この家に火事起りて、火ははや障子に燃えうつり、今や天井までも燃え上らんとす。見よ、一人の兒童は驚きあわてて救を呼べり。いかにしてかかる恐ろしき事の起りしか。この兒童は平生虚言をいひて人のまこととするを面白きことに思ひ、いつも虚言をいひて人を欺きしかば、遂には誰もこの兒童の言を信ずるものなきに至りき。

ある日、この兒童ひとり留守居せしとき、俄に出火して、この繪の如く盛んに燃え上らんとしたれば、この兒童は驚きあわて

て、火事よ火事よ」と救を求めしが、近所の人人は例の虚言者がまたも人を欺くならんとて、注意するもの少く、數多の人のいであふ頃には、救ふこともかなはぬ程の大事となれり。かくて、火はますます盛んに燃え上りて、遂にこの家を焼き落したり。諸子はこの話を何時とききしか。この兒童がつねに虚言をいひて人を欺くことなかりしならば、救を求むるや否や、近所の人は速に駆けつけて、大勢の力にて火を消し得たりしならん。然るに、この兒童はつねにこれ等の人人を欺きたりしかば、遂には家をも失ふに至りしなり。

かくの如く、つねに虚言をいひて人を欺かば、たとひ眞實なる話をなすとも、聞く人はそれをも虚言ならんと疑ひて注意せざるに至るべし。

虚言は悪しきことなれば、如何なる場合にも虚言をいふことなかれ。ありもせぬことをあるよーにいひ、見もせぬことを見たるよーにいひ、聞きもせぬことを聞きたるよーにいひ、または何事に限らず、大げさにいふはいづれも虚言をいふこととなるものなれば、よく氣をつくべし。

注意

本課に因みて左の諸項を諭すべし。

イ。火をもてあそぶべからざることを。

ロ。火の傍にゐるときには、過なきよー氣をつくべきこと。

主要なる設問

- 一。この兒が「火事よ火事よ」といったときに、なぜ誰も駆けつけませんでしたか。
- 二。この兒は虚言をいつてを、たために、どんなことができましたか。
- 三。どんなことをいったら、虚言になりますか。

第二十 過をかくすな

(二時間)

目的

過をかくすべからざることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この兒童は庭にいでて毬なけの遊をなし、過ちて隣の家の障子を破れり。この兒童はすぐに隣の家に行き、ありのままに、そのわけを話して、丁寧^{ていねい}にわびたり。隣の人は快くこれをゆるしかへつてこの兒童の過をかくさざるを褒めたり。すべて、過は己れの不注意より起る。さればわざとなしたることならずとも、その不注意なりしことの悪しかりしを思ひて、過を謝せざるべからず。己が心には、悪しと知りながら、叱られ

んことを恐れて、これをかくし、また甚だしきは、これを人のしわざの如くにいひなしなどするは即ち虚言をいふものにて、いよいよ悪しきことなり。されば諸子よ。若し過をなしたらんには、この兒童の如く、すぐに謝すべし、また、一たびなしたる過は再びなさざるよ。心がくべし。

注意

本課を教授する際に兒童の犯し易き過失を擧げて、これを戒むべし。例へば障子を破ること、茶碗、皿などをこはすこと、物を失ふこと等の如し。

主要なる設問

- 一。この兒は隣の障子を破つてどうしましたか。
- 二。過をしたときは、どうするのがよいでせうか。
- 三。過をかくしてをると、どんな心持がしますか。

第二十一 人の妨をするな

(二時間)

目的

人の妨をなすべからざることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。これは大工の仕事をなしをる所なり。この家の兒童は今、その友だちと、ここにきたり、數多の材木や板などのあるを見て、大に喜び、ここにて遊ばんとせり。祖父はこれを見て、汝等もしここにて遊びゐたらば、大工の迷惑となるべし。また材木や板などをもてあそびては、仕事の妨となることも多からん、他所に行きて遊ぶべしと、教へたとせり。諸子の家にては、祖父母や父母が仕事にいそがしきこともあらん、下女下男がその仕事を助くることもあらん。かかるとき

に、いろいろのことをいひだして、その妨をなすことあるべからず。また、きょうだいや友だちの勉強せる所にて、戯れさわぎなどして、これを妨ぐることもなかれ。

諸子が他所にいでたるときにも、大工や左官の仕事をなせる所にて遊び、または、職人の仕事をなせる所に戯れなどして、その妨をなすことなかれ。

兒童は學校にありても、家にありても、學ぶときも、遊ぶときも、何事につきても、つねに人の妨をなさぬよー心がくること大切なり。

注意

この課は第八「あそび」と聯關して教授し、彼此相待ちて、つねに人の妨をなさぬことの大切なるを諭すべし。

主要なる設問

- 一。おぢいさんはなんと行って、この子供たちに教へましたか。
- 二。おとうさんやおかあさんが仕事にいそがしいときには、どうしてをらねばなりませんか。
- 三。勉強してをるものそばでは、どうしてはなりませんか。
- 四。路普請などをしてをる所では、どうするのがよいでせうか。

第二十一 自分の物と人の物 (三時間)

目的

自分の物と人の物との別を知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この女の兒が梅の枝を母にさしいませるを見よ。ある日、この兒は路ばたの垣の内に、梅の花が奇麗に咲きたるを見、枝を折

り取りて家に持ち歸り、母にさしいませり。この兒の心にては母はさぞ喜ぶならんと思ひしなり。母はこれを見て心配さうにこの兒に向ひ、「この梅の枝は誰に貰ひきたりしぞ」と問へり。この娘「これは貰ひしにはあらず、太郎さんの家の垣の内に、咲けるを折り取りて持ち歸りしなり」と答ふ。母は「さらば汝は大きな心得違をなしたり。あの垣の内の物はみな太郎さんの家の物なり。早くこれをかの家に持ち行きて返し、よくわびをなすべし、われと共にきたれ」といひて、この兒を太郎の家につれ行き、梅の枝を返して、その心得違を謝せしめたり。

諸子はすべて自分の物と人の物との別をわきまへ、決して人の物を取るべからず。またことわりなしにこれを使用すべからず。人の物なりとて粗末にすべからず。拾ひし物はすぐその

持主にかへすべし。もし持主の明ならざるときは、父母または教師にさしいだすべし。

注意

本課に因みて左の諸項を論すべし。

- イ。人の物を妄に請求せぬこと。
- ロ。物を貰ひたらば、必ず父母または教師に告ぐべきこと。
- ハ。自分の物を人に與へんとするときは、父母または教師の許を受くべきこと。

ニ。妄に物を借り貸しせぬこと。

ホ。物を交換せぬこと。

ヘ。借りたる物は必ず返すべきこと。

主要なる設問

- 一。この兒はなんと思つて、梅の枝を折り取りましたか。
- 二。おかあさんはなんといつて教へましたか。

三。この兒はおかあさんの話をきいてなんと思ひましたか。

四。人の物を取扱ふには、どんな心がけが大事ですか。

第二十三 生き物

(二時間)

目的

生き物を苦むるは悪しきことなるを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

諸子は巢より落ちたる雀の子の話を覺えをるか。……然り、巢より落ちたる雀の子はまことにあはれなるものなり。この繪を見よ。これは兄弟二人が雀の子をもとの巢に返さんとする所なり。ある日、弟は家の屋根に雀が巢を造れるを見て、よき物を見つけたりとて、屋根に上り、巢の中なる子をとらへきたり、

これを飼ひおかんと思ひ、籠に入れたれば、雀の子は悲しさうに鳴きゐたり。親雀は餌を求めんとて巢をいでしが、歸りくれば、子は一羽もをらざるに、鳴きながら彼方此方を飛びまはりて、子をさがしゐるさまあはれなり。

兄はこのさまを見て、汝はまだよくも育たぬ雀の子をとらへて、かはいさうとは思はざるか。われ等きよくだい、もし人にとらはれて、父母のもとを離れたらんには、いかばかりか悲しきことなるべき。父母もまたわれ等を失ひたまはば、いかばかりか歎きたまふべき。見よ、親鳥は巢のあたりを飛びまはりて、しきりにその子をさがしをるならずや。必要もなきことに親子の鳥をいぢめて、慰とするは、悪しきことぞ」といひきかせたり。弟はこれをききて深く感じ、雀の子をもとの巢に返さん」といひ

いでたれば、兄も喜びていっしょに雀の子をもとの巢に持ち行きたり。

鳥や蟲なども皆生あるものなれば、これを苦めんには、苦痛を感ずることは人に異ならざるべし。されば必要なことに苦むるはまことにかはいさうなり。諸子の家には、雀や燕のきたりて巢をつくることもあらん。諸子は妄にこれを苦むることなかれ。また蝶やとんぼの飛びくることもあらん。蟬や蛙の鳴きをることもあらん。さりとて、これをとらへ苦むることなかれ。すべて必要もなきに生き物を苦め、また、殺しなどするは甚だよからぬことなり。ましてむごきことをして、殺しなどするはことに悪しきことなり。

注意

本課に因みて犬猫などをいぢめぬよ一論すべし。

主要なる設問

- 一。雀の子は籠に入れられて、どうしてゐましたか。
- 二。親雀は子をとられて、どうしてゐましたか。
- 三。にいはさんは弟になんといひてきかせましたか。
- 四。弟はどう思つて雀の子を返しましたか。

第二十四 近所の人

(二時間)

目的

近所の人互に助けあふべきことを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。この兒は他所に遊に行く途中にて、大なる犬に追ひかけられ、驚き叫びて救を求めしに、近所の人はその聲をきき、驅けいでて犬を追ひやり、この兒を救ひをるなり。

諸子が犬に追はれしとき、近所の人が助けくれしこともあらん。諸子が路にてつまづき倒れしとき、近所の人が起しくれしこともあらん。その他、いろいろの場合に於て、諸子は近所の人との世話を受くることつねに多かるべし。

われ等の家がもし人も住まぬ山奥や森の中に、ただ一軒あらば、そのさびしさは如何ばかりならん。われ等が近所の人といふしよに住みをるこそ仕合なれ。諸子の家に難儀の事の起るときは、近所の人きたりて諸子の父母を助け、近所の人に何か事の起るときは、諸子の父母は行きてこれを助く。近所の人ばかりの如く互に助けあひてくらしをるものなり。

されば諸子も常に近所の人に親むべし、みだりに悪口をいひ、人の家の垣壁などを傷つけ、または、これに落書し、或は果實を

取り、または花木を折りなどして、近所の人に迷惑をかくることあるべからず。

注意

近隣親睦の念は延きて公共心の本となるものなれば、本課を教授する際近所の人と親むべきことを知らしむるよー注意すべし。

主要なる設問

- 一。皆さんはどんなときに近所の人のお世話になりましたか。
- 二。もし近所の人一人もゐませんでしたら、どうでせうか。
- 三。近所の人にはどんな心がけが大事ですか。

第二十五 人に迷惑をかけるな (二時間)

目的

人に迷惑をかくべからざることを知らしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。これは祖母が路端にてらんぶのかけを拾ひをるを、幼き孫がそのわけをたづぬる所の繪なり。祖母はある日、孫をつれてらんぶを買ひに行きしが、その歸り路にて過ちてこれを落とし、らんぶは石にあたりて、こまかに破れたり。祖母は、そのかけを一つ一つ拾ひとらんとするを、この兒童は「かくこまかにこはれて役にたたざれば、捨てて歸らん」といふ。祖母は「否、このかけは何の役にもたたざれど、このまま捨ておかば、この所を通る人人がふみつけて、けがすることもあらん。それゆゑこまかなるかけまで拾ひとるなり」と答へたり。

諸子はこのことをききて何と思ふか。われ等は多くの人といっしよに、この世の中にくらしをるものなれば、人に迷惑をかけぬ

よー心がくること肝要なり。己れ一人のためのみを思ひて、世間の人をかへりみぬはおもひやりのなき人といふべし。諸子は公園社寺に行きて花をとり枝を折りなどすべからず。みだりに人の垣の内にもみ入るべからず。田畑にもみ入りて作物を害ふべからず。また道路橋梁その他郵便函電信柱などに悪戯をなすべからず。

主要なる設問

- 一。おばあさんはなぜらんぶのかけを拾ひましたか。
- 二。世間の人に迷惑をかけるのはなぜわるいでせうか。
- 三。公園や社や寺にいったときには、どんな心がけが大事ですか。
- 四。遊にでたとき、どんなことをしてはなりませんか。

第二十六 よい子供

(四時間)

目的

児童が修業證書を受くる話によりて、これまで教へしことをまとめて復習せしむるを以て、本課の目的とす。

説話要領

この繪を見よ。ここに見ゆるは第一學年生なり。これ等の児童は今、先生より修業證書を受く。彼等は前年の春、始めて學校に入りしが、よく先生の教に従ひ、教室にては、勉強の大切なることを思ひてよく學び、運動場にては、遊の心得を守りてよく遊び、また、常に時刻を違へず、整頓に注意し、姿勢を正しくし、元氣よくありたれば、次第にいろいろのことを覚え、身體もますます、丈夫になれり。されば先生は常に喜びあたり。

これ等の児童は家にありても、祖父母や父母の恩の大なることを思ひて、常に孝行をなし、また、きょうだいとも仲よくくらし

たれば、家内の人たちも皆喜びゐたり。

これ等の兒童はまた、虚言をいはず、過をかくさず、人の妨をなさず、行儀をよくし、友だちを助け、近所の人と親み、また、世間の人に迷惑をかけぬよゝ心がけたれば、近所の人も皆褒めゐたり。

これ等の兒童はいづれも皆天皇陛下の御惠の深きことを思ひて、よき日本人とならんことを心がけたり。諸子も彼等の如くよき兒童たらんことを望むなるべし。されば、これまで習ひたるすべての心得はいづれもよく守りて忘るることなく、天皇陛下の御惠の深きことを思ひて、よき日本人にならんと心がくべし。

注意

本課はこれまで教へたるすべての心得をまとめて復習せしむるものなれば、教授の際、この點に注意し適宜敷衍して十分に會得せしむるよゝ務むべし。

主要なる設問

- 一。よい子供は學校でどんなことをしますか。
- 二。よい子供はうちでどんなことをしますか。
- 三。よい子供は人に向つては、どんなことに氣をつけますか。

尋常小學修身書

第一學年教師用終

131.1-1-1b

明治三十六年八月三日印
明治三十六年八月六日發行
明治三十八年十月十四日翻刻印刷
明治三十八年十二月二日翻刻發行

著作權所有

明治卅八年十一月廿八日
文部省檢査濟

尋常小學校修身書教師用第一學年
定價金七錢

著作兼發行
文部省

翻刻者
小立 鉦 四 郎

印刷者
野村 宗 十 郎

印刷所
株式會社 東京築地活版製造所
東京市京橋區築地二丁目十七番地

發行所
南江堂書店
東京本鄉區湯島切通坂町八番地

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

發賣所
合名會社 國定教科書共同販賣所

